

こんなふうに
生きてみよう...

平和な世界を
信じます。

ケダー

ぼくの国の少年たちは平和を
体験したことはありません。
戦争中に生まれ、成長したか
らです。

たくさんの方は、よりよい世界
がくるという希望をもっていま
せん。

世の中では、逆のことが言わ
れていても、ぼくは、平和で
一致した世界は可能だと思っ
ています。

何千もの少年、若者、大人がこのために生きているよう
努力していることをみてきたので、ぼくはそれを信じます。

ある時期、特に理由はないのに、ぼくに反感をもってい
るのに気がつきました。

ぼくはそうしたひとりひとりを神様に祈ってゆだねました。
そしていろいろなやり方で、ぼくは反感は持っていないこ
とを示しました。小さなプレゼントをしたり、電話をかけた
り、家を訪ねたりして...

少ししてからぼくに話しかけたり、あいさつするようにな
りました。一緒にでかけるようにもなりました。

まず私たちひとりひとりの心が変わるなら、世界は変わ
ると確信しました。

いのちの言葉 | 03

**わたしの後に従いたい者は、自分
を捨て、自分の十字架を背負って、
わたしに従いなさい。**

(マルコ8, 34)

イエス様は、エルサレムに向かって歩
み始められます。今や、イエス様の最
後の時が近づいていました。弟子たち
は、イエス様にどこまでも従うと言ったと
き、イエス様は答えました。

「わたしの後に従いたい者は...」

今、イエス様に従うためには、彼の生き
方を全面的に受け入れなければならない
、とはっきり示されたのです。喜びや
情熱はあるとしても、敗北、敵対、さら
には死すらも意味していました。

**イエス様に従うにはどうしたらいいで
しょうか。?**

最初の一步は、「自分を捨てる」
こと、自分の考え方を頼りにしな
いことです。

「あなたは神のことを思わず、人間の
ことを思っている」とおっしゃったイエス
様が、ペトロにお求めになった一步で
もありました。

ペトロと同じように、私たちが時々、自
分のものの見方に基づいて、勝手に
自分が正しいのだと思ったりします。

**「自分を捨てる」とは、神様の
考え方の中に入っていくこと
です。それは、イエス様が自
ら示された道です。**

**{ イエス様に従うために、第一
歩として特に困っている人た
ちに向かっていくように努力し
ます。 }**

**一粒の麦が地に落ちて死ぬことによ
って実る道、人から受けるより与えるこ
とに喜びを見出す生き方、愛ゆえに命を
与える道です。**

一言で言うなら、様々な苦しみの中で
自分の十字架を背負っていく生き方
です。

イエスと共に、数人で運ぶなら、その
十字架は軽く、負いやすいものです。
イエスに従うとは、そういうことであり、
私たちは彼の真の弟子になります。

**あらゆる弱さの中にも力を、イエス
ご自身を見出すからです。**

**{ 難しさは、飛躍するための
踏み台になります。 }**

弱さの中に

力を

みいだすように

努めます。